

調査報告概要表

作成日平成19年 7月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670101908
法人名	財団法人 慈愛会
事業所名	グループホーム 愛と結の街
所在地 (電話番号)	鹿児島市小原町9番28号 (電 話) 099-267-0533
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】平成19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築／改築
建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500	円	その他の経費(月額)	実費＋約1,600(円)
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数		17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1		7	名	要介護2	4	名
要介護3		5	名	要介護4	1	名
要介護5		0	名	要支援2	0	名
年齢	平均	85 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	財団法人慈愛会 今村病院 今村病院分院 谷山病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは財団法人慈愛会の一施設であり、住宅街の中に建ち駐車場も広く、電停まで10分前後の交通の利便性の良いところにある。町内会へは早くから加入し、地域との交流も年を追うごとに近隣から理解してもらい、婦人学級など町内行事に参加したり、ホームの行事へ地域の方々に参加してもらったり、日常的な交流が活発化している。ケアは、利用者の得意な面を引き出せるよう生活歴や思考に注目し、職員の独りよがりな捉えかたに陥らないように、利用者や家族の立場に立てるように努力している。職員の養成研修も組織的に実施し、グループホーム間の交流学習も積極的に行っている。職員は生き生きとした明るさが印象的で、優しい気配りと声かけが利用者に安心とゆったりとした居心地の良い空間を提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、「定期的な健康診断は、集団生活でもあり、早期発見のために年1回受けることが望ましいとあった」ことから、運営推進会議や職員会議の中で検討しているが、利用者が市外の方もおり、地域の健康診断との連携(健診日や場所が決まっている)も難しいので、4週1回の診察と早期の受診に心がけるよう、また、利用者の体調の変化に気配りするなどの努力をしていくこととする。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組み、サービス向上に役立っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、運営推進会議の目的や外部評価や運営状況の報告を行い、出席者からは、地域の方々からの理解や交流を深めるために運営やサービス提供への意見が出て、サービス向上に役立っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年3回の家族会・2ヶ月1回の運営推進会議への参加をお願いし、一人でも多くの参加者の下、ホーム運営についての意見をもらっている。面会の際、すすんで家族へ声を掛けて、家族の意見・不満・苦情を聞き対応するよう努めている。出てきた意見等は管理者・職員で検討し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ加入し、東谷山小校区の婦人学級へも利用者と職員が交代で参加し、地域婦人の方々と一緒に活動している。加入から4年目を迎え婦人学級の方々からも理解してもらい、ホームの催しや認知症の講演会へ参加してもらい、年々地域との交流が深まっている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく、その人のペースでその人らしさを大切に」を理念に掲げており、地域密着型サービスについては職員間で話し合い、母体組織にそれら概念を取り入れた理念があることから、事業所では母体組織の理念をそのまま掲げている。	○	母体組織の理念をそのままでなく、事業所独自にこれまで取組んできた実績から、今何を地域が事業所に求めているのか検討し、現状にあった理念に作り変えていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所では、職員間で毎朝理念の唱和を行い、理念の中身を理解して、何を大切に利用者に向き合うかを考えながら日々のケアに取り組んでいる。新任者へは、管理者が理念について理解できるよう指導している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、東谷山校区の婦人学級へ入り職員と利用者と参加し、地域婦人の方々と一緒に活動をしている。加入から4年目を迎え婦人学級の方々からも理解をもらって、事業所の催しへの手作り作品の出展や認知症の講演会へ参加してもらい、地域との交流がうまくいっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は定例会で報告し、サービス提供の改善に向けて具体的に検討している。前回の健康診断についての指摘は、4週に1回の医師診察を既に実施し、また体調が気になるときは早めの受診を心がけていることから、現状のままで進めていくこととしている。自己評価も職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の議事録の検討・懸案事項について、その後、事業所内で検討し取り組んだ経過等を報告し、話し合いをもってサービスの質向上を図っている。運営推進会議は、外部者の視点から運営やサービス提供への意見が出てくるので、今後も出席者の検討を行い、幅広い意見が出てくるように大いに活用していきたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が来所した機会に、事業所から情報提供を行い、サービスのあり方や考え方、運営で生じる課題を一緒に解決する、という立場で話しいを持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの情報は、母体組織の情報誌のみでホーム独自の便りは発行していない。年3回の家族会でホーム情報は伝えている。利用者個々の近況や健康状態は、家族面会時に職員から直接伝えるようにしている。金銭出納については、面会時に確認印をもらい、遠方の利用者家族へは電話と文書を送付している。職員交代については事後報告であるが、面会時または家族会で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会では、ホーム情報の報告後職員は座をはずして、家族のみで話し合えるように配慮している。出てきた意見・相談については代表者・管理者・スタッフなどで話し合い、サービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の利用者の情報把握とコミュニケーションを図る中で、管理者・職員・利用者の多数が母体組織からの異動で馴染みの者たちなので、異動による影響は殆んどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織内異動が殆んどであり、新任者も含めて母体組織内で段階に応じた研修計画を作成している。新任者へは「プリセプター制度」を導入しており、職員個々の業務評価シートも取り入れており、個々人の育成計画を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームの勉強会を月1回開催し、管理者・職員が参加し交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人本位で利用決定を行っていることを大事に、本人家族のホーム見学などを通して納得・馴染みを持っていただくよう工夫している。また職員は、利用者について早く理解を深めるようにしている。特に初期には、しばらく家族や馴染みの方々に頻繁に面会してもらい、安心して早く馴染めるように努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活をしているという意識の下、人生の先輩として敬い、時には家族として支えあう関係を築いている。特に畑の野菜作りや食事作りでは、教えてもらうことも多く、収穫を共に喜び、美味しい食事を楽しんでいる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の思いや希望をよく聞き、また表情などから気持ちを把握し、個々の意向に副えるようケアすることがグループホームの本質と捉え、安心できる生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間での定期的なカンファレンス以外にも、本人及び家族の意向を聞き取り、家族出席のもとでケア会議を開き、職員や関係者が意見を出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時は暫定ケアプランを作成し、初期カンファレンス後介護計画を作成している。見直しは、3ヶ月毎にサービス担当者会議を開いて実施している。見直し前に状況の変化があったら、その時点で柔軟に臨機応変な対応をとっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、病院受診・美容院などの送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医をきいているが、全員が事業所の協力医であり、4週に1回の内科診察を実施している。受診結果は、平常と変わらない場合はまとめて家族へ報告しているが、容態の変化のある場合は即時に連絡をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアについては実際例はないが、利用説明書へも記載してある様に、必要なことが起こった時点で家族とも再度話し合うこととしている。職員もいつでもそのような事が起こりうるとして、家族・医師・看護師を交えて「医療加算」の話し合いを持っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助・衣服の整えなど、利用者のプライドを損ねない気遣った介護が提供できている。また管理者は、日々のケアの中でプライドやプライバシーを損ねるようなケアがないか注意をはらっている。個人の記録物は利用者の目に入らないように取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一定のスケジュールに無理に合わせるのではなく、利用者一人一人のその日その時の体調・思いなど希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付けなどは利用者と職員と一緒にやっている。自分が食べた食器は自分で洗うという決まりを作っていて、男性の利用者も食器を洗い、洗うのが難しい方は下膳を行っている。それぞれが食事の準備・片付けに役割がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が決めてあり、個々の体調に合わせて希望の時間・タイミングに気配りして実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の希望を聞いたり、過去の経験・生活歴を考慮して、調理の下ごしらえ・洗濯物たたみ・掃除・手芸・歌をうたうなど利用者が得意分野を発揮できそうな場面をつくり、本人の役割や自分らしさを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の多くが外出が好きで、買い物・散歩など、職員が安全管理できる範囲でできるだけ外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出入り口・リビングの窓の全てを施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は利用者と地域の方にも参加してもらい、年に2～3回昼夜を想定した避難誘導の実地訓練をしている。職員への緊急通報システムも整備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分が摂れているか、利用者それぞれのおおよその量を把握し、記録し、個々の状態に応じて支援している。また、母体組織の管理栄養士による献立指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビング兼食堂は、程よい明るさと利用者や職員の話し声が聞こえる中で、食事準備の香りがし、楽しい食事を感じさせる。音楽が流れ、語らいの場や手作り作業の場となるなど、ゆったりと思い思いの過ごし方をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具や好みの物が家族によって持ち込まれ、家族の写真や手作りの作品が個性的に飾っており、居心地よく過ごせるように工夫している。		